

勝手にスピンアウト脚本

『小さな夢が叶った日』

草太兄ちゃんの牧場を継ぐことになった純。慣れない牧場の仕事は大変だが経営は順調で、鳥沼公園の近くのアパートで一人暮らしを始めた純は正吉の後押しもあり、ついにシュウとの結婚を腹に決める。

ある日曜日、久しぶりのデートで富良野で会う純とシュウ。

純『参ったぜ、朝早いからよ。夜 8 時になると眠くなっちゃうぜ笑』

シュウ『健康的い～私も牛のお世話したいな～』

純『ホント大変だぞ』

シュウ『純と一緒になら楽しいし～』

2人笑う

『でも——』『なあに？』

純『それ聞いてちょっと安心したな』『ん？』

『——あのさ。俺と本当に一緒に牧場の仕事やらねえか？

—冗談じゃなくてさ——』『これ、一応プロポーズだぜ』

シュウ『えっ!?!』

純からのプロポーズを秘かに待ち続けていたシュウは涙でしばらく言葉が出なかったが『はい……喜んで』と OK する。

純が安定した仕事に就いた事によって上砂川の家族にも祝福され、2人の結婚を元々望んでいた五郎も報告を受けて大喜び。身内の



みの小さな結婚式も挙げ2人は新婚生活を始める。

石の家には、時々正吉&螢&快、純&シュウが集まり、6人で過ごす賑やかで笑いの絶えない時間は五郎にとってかけがえのない癒やしの時間となっている。

皆が帰ったあと、夜、写真の中の令子に五郎は手を合わせる。

『ありがとう—お前が残してくれた宝物のお陰でオイラ幸せ者だあ—』

感謝と幸せの余韻の中、五郎は眠りにつき、穏やかで幸せな日々は続く……。

【終わり】